

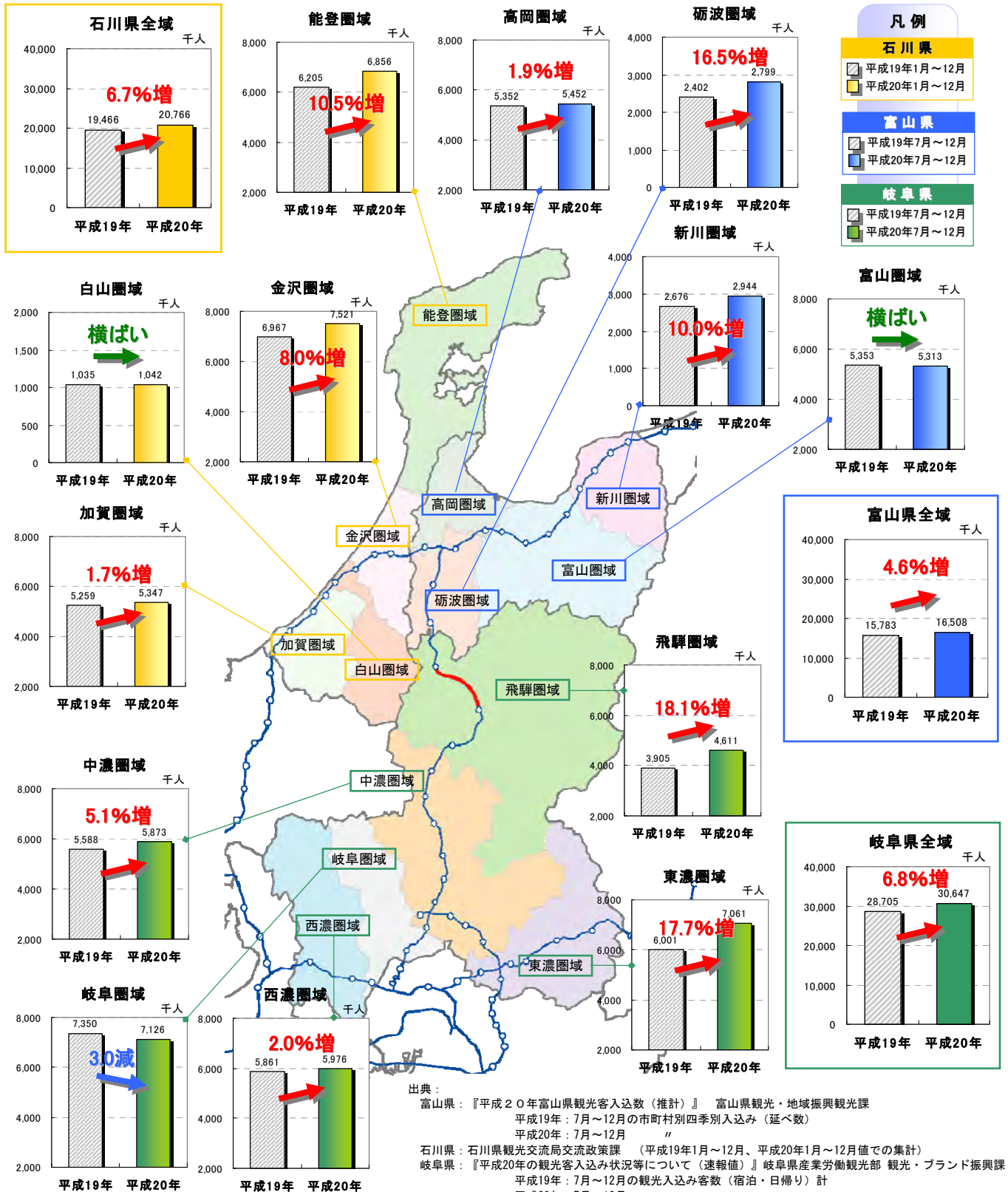
2. 地域社会への影響

2-1. 観光

1) 観光入り込みの変化

- ・ 東海北陸道全通後、岐阜県、富山県、石川県における7月～12月（※石川県は1月～12月）の入込み客数が前年同期と比べ、4.6%～6.8%増加しました。（岐阜県6.8%増、石川県6.7%増、富山県4.6%増）
- ・ 地域別には、岐阜県では、飛騨圏域（18.1%増）東濃圏域（17.7%増）が増加しています。石川県では、能登圏域（10.5%増）が増加しています。富山県では、砺波圏域（16.5%増）新川圏域（10.0%増）が増加しています。

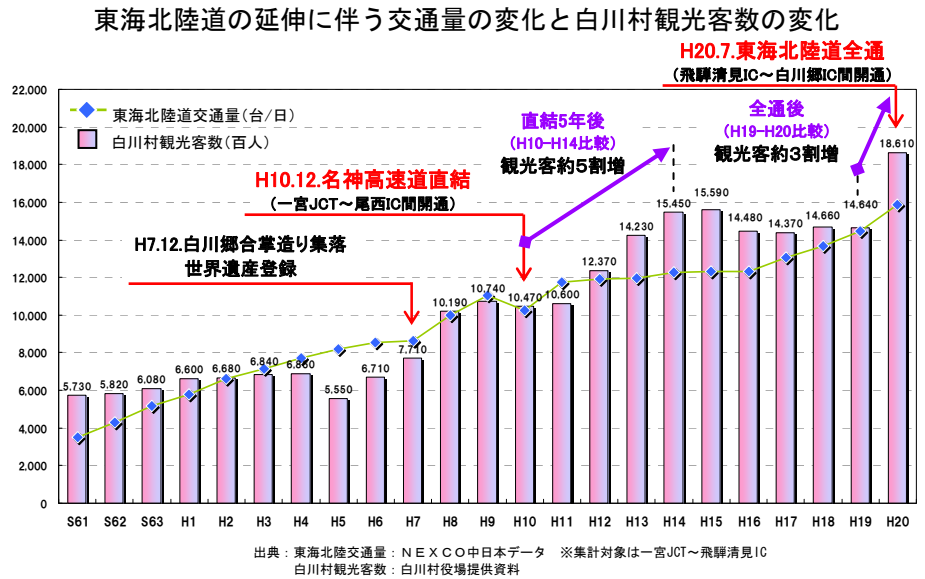
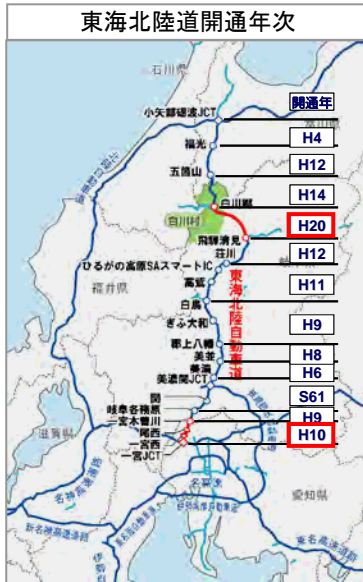
飛騨圏域、東濃圏域、砺波圏域での観光入り込みが増加



2) 白川村の観光客数の推移

- ・ 東海北陸道沿線自治体である白川村では、名神高速道との直結（平成10年）や東海北陸道の延伸及び全通に伴い、観光客が増加しています（昨年過去最高）。
- ・ 名神高速道直結5年後は観光客約5割増、全通後には前年比約3割増となっています。

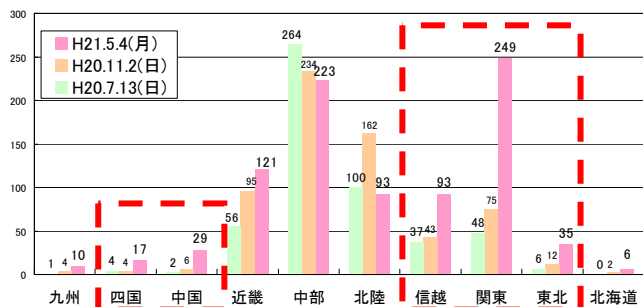
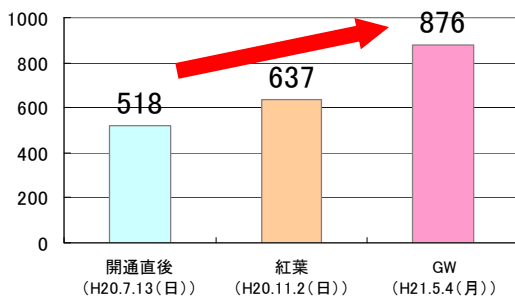
東海北陸道の延伸・全通に伴い白川村の観光客数が増加



3) 白川郷アクセスエリアの拡大（白川郷駐車場の利用車両の車籍地の変化）

- ・ 白川郷の「せせらぎ公園駐車場」の利用台数は、開通直後、紅葉シーズン、ゴールデンウィークと増加傾向にあり、アクセスエリアも拡大しています。
- ・ 利用車両の車籍地は、道路ネットワークの拡がりにより広域的な地域で増加傾向がありました。ETC割引などの効果もあり、GWには関東・信越・東北地域が2～3倍、中国・四国地域から4～5倍の利用がありました。

開通後、白川郷への来客が全国に拡大



【せせらぎ公園駐車場利用台数の推移】

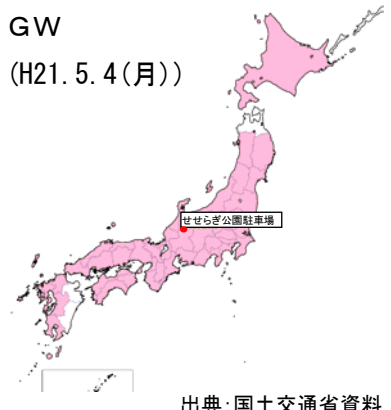
開通直後
(H20.7.13(日))



紅葉
(H20.11.2(日))



GW
(H21.5.4(月))



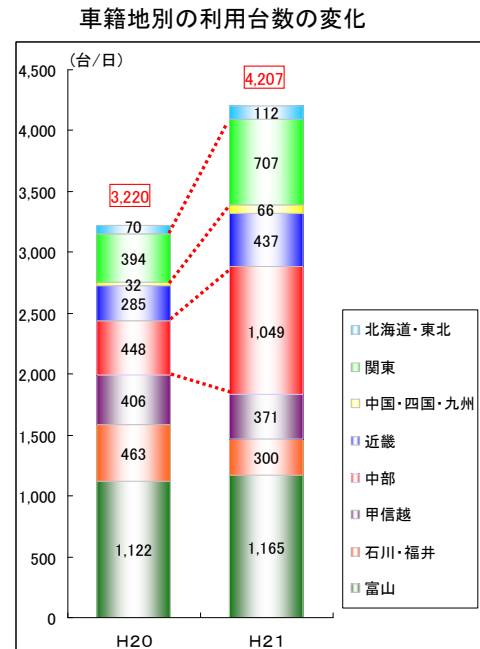
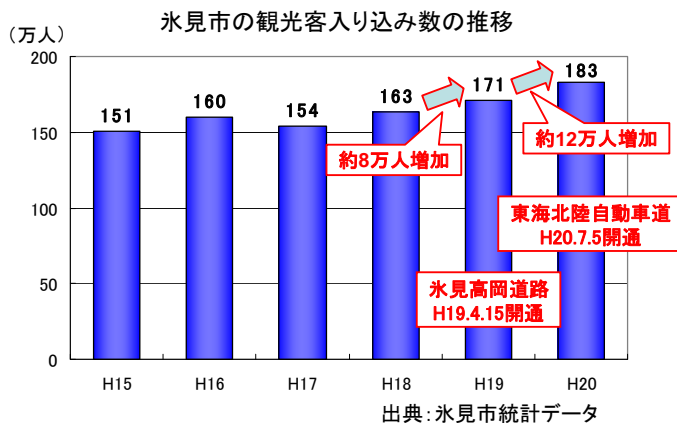
【車籍地拡大状況】

出典：国土交通省資料

4) 富山県内の観光施設の状況

- ・道の駅氷見の駐車場利用台数について、今年のGWでは、昨年に比べ約990台増加（約1.3倍）しました。
- ・利用車両の車籍地では、中部地域（岐阜、愛知、静岡、三重）が約2.3倍になり、大きく伸びており、ETCの割引などの効果もあり、近畿地域や関東地域からの交通も伸びています。
- ・また、氷見市の観光客入り込み数もH19年とH20年の比較では、約12万人増加しています。

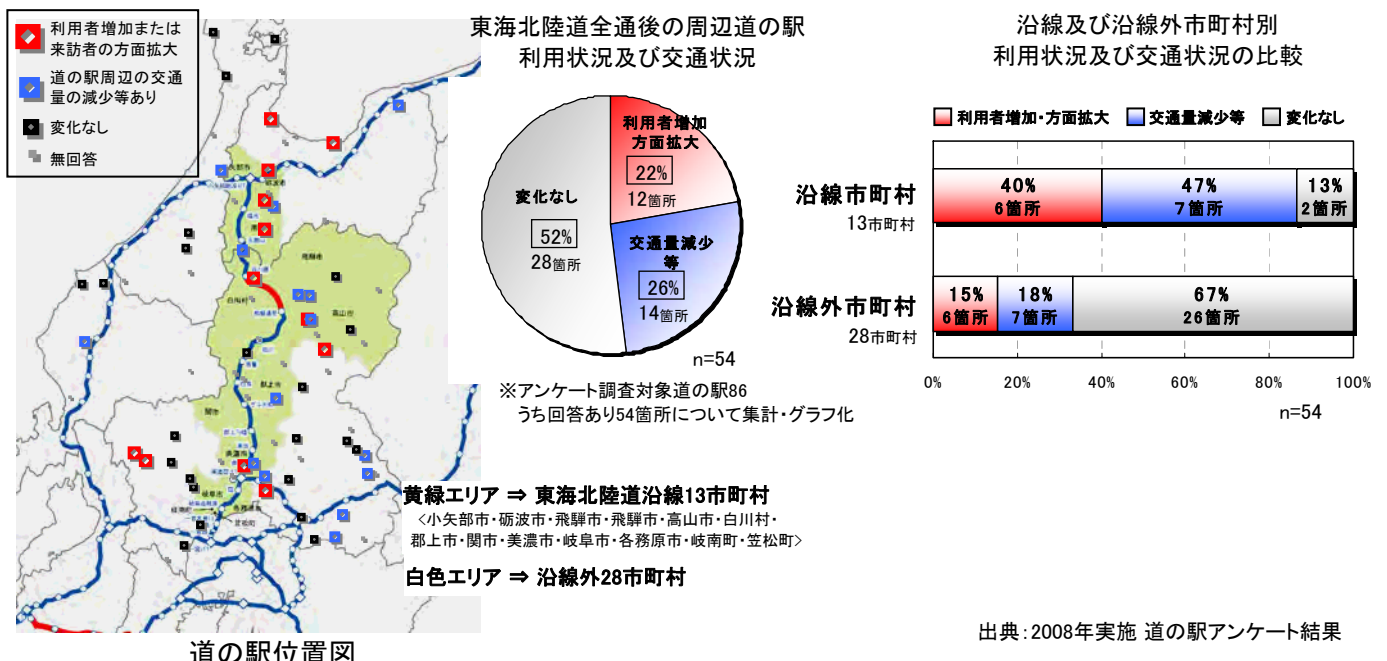
GW期間中の道の駅駐車場利用台数が約1.3倍、中部地域から約2.3倍と増進



5) 東海北陸道開通における道の駅の利用と変化

- ・道の駅アンケートの結果、東海北陸道周辺の道の駅の22%（12/54カ所※）が利用者増などの効果があったと回答がありました。（※回答のあった道の駅を母数とする）
- ・沿線市町村とそれ以外での比較では、沿線市町村の方が利用者増などの割合が高なっています。

東海北陸道開通により、方面拡大や利用者数増の道の駅多数



6) 観光施設の季節変動

- 石川県七尾市のとじま臨海公園水族館では、開通後、東海圏からの来館者数が、夏の2.3倍を筆頭に、1.2~2.3倍となりました。
- 石川県輪島市では、開通後、中部圏からの宿泊施設利用者数が、秋の2.1倍を筆頭に、1.3~2.1倍となりました。
- 岐阜県美濃地域の観光施設では、開通後、各季節における入込み客数が、1.1~1.4倍となりました。

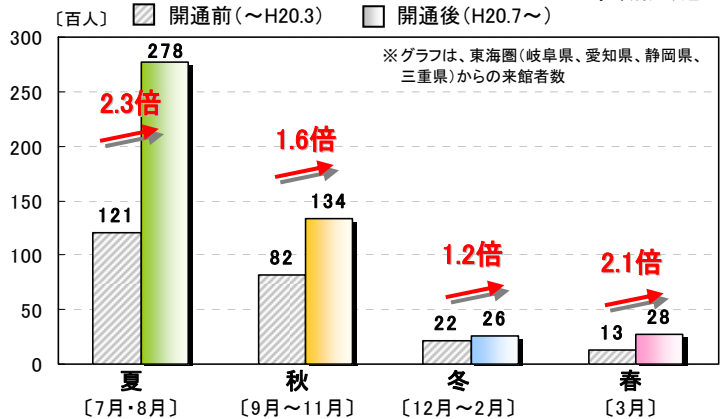
東海北陸道の周辺の観光施設でも季節に合わせ集客に変化



(前年同季比※)

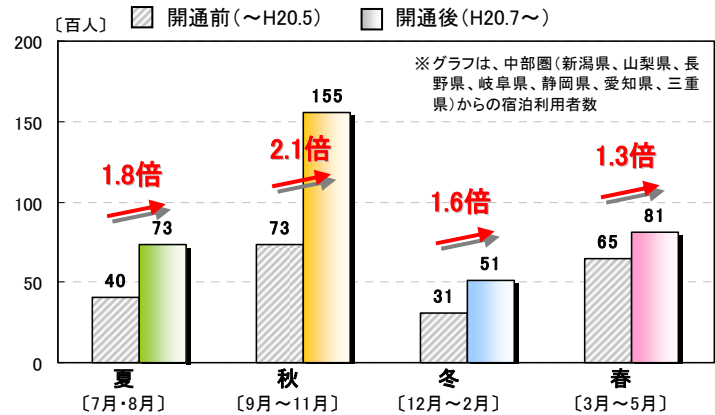
■ 季節別のとじま臨海公園水族館来館者数<東海圏>の推移

※季節別入り込み客数計



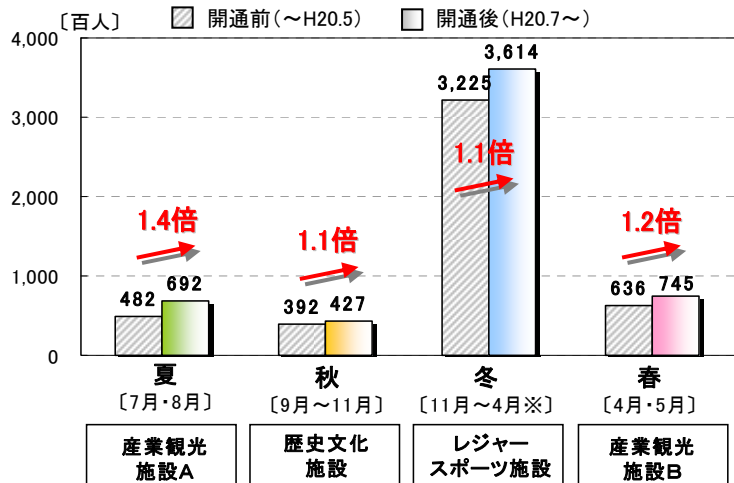
※毎月1週間程度の窓口調査により方面別の人数を換算
出典: 石川県ふれあい公社、のとじま臨海公園水族館しらべ

■ 季節別輪島市宿泊施設利用者数<中部圏>の推移 (前年同季比※)



出典: 輪島市観光課しらべ

■ 季節別美濃地域の観光施設入込み客数の推移 (前年同季比※)



※スキーシーズンとなる11月～4月までを集計
出典: 各レジャー施設提供資料・郡上市提供資料



のとじま臨海公園水族館
出典: のとじま臨海公園水族館HPより



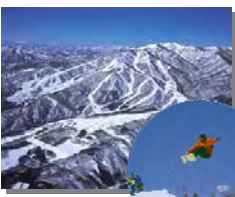
輪島朝市
出典: 輪島市観光課より



産業観光施設A
出典: 施設HPより



歴史文化施設
出典: 産業振興公社HPより



レジャースポーツ施設
出典: 施設提供資料より

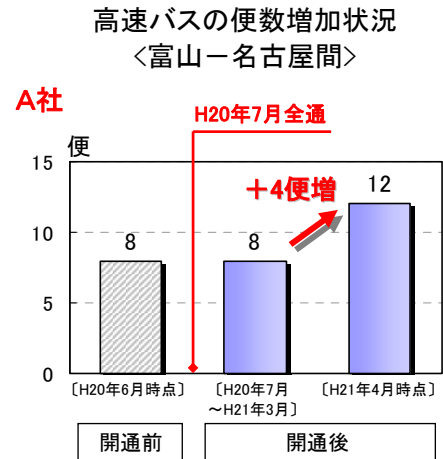


産業観光施設B
出典: 施設HPより

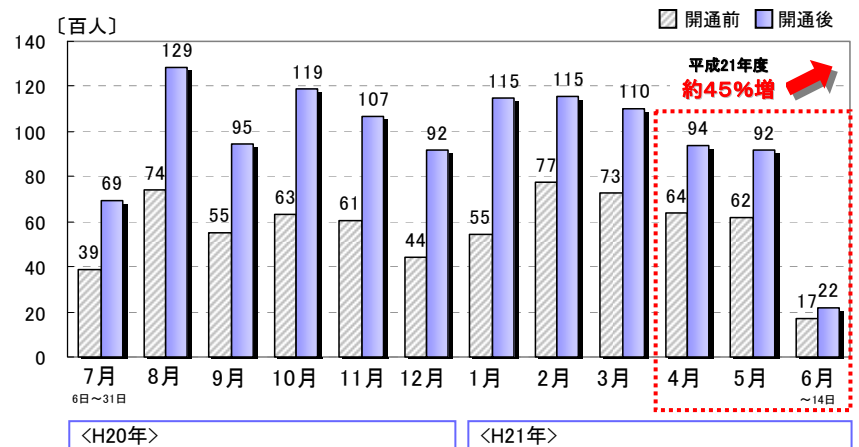
7) 高速バス

- ・バス会社A社では、名古屋—富山間を結ぶ高速バスの便数は、全通10ヵ月後にこれまでの8便から12便へと4便増便しています。
- ・バス会社B社では、高山—金沢間及び高山—白川郷間の高速バス利用者数が、平成21年度実績において、開通前に比べ約45%増加しました。月別においても各月、増加しています。

中部～北陸間の高速バスが増便、利用者数45%増のバス会社もあり



高速バスの利用者数の推移
〈高山—金沢線・高山—白川郷線計〉



◆ バス会社ヒアリングより

高速バスの利用客増加により、4月より、高山—白川—五箇山の定期観光バスの運用を開始しました。〔B社ヒアリング〕

北陸方面から中京方面へ買い物に行く利用客（主に若い層）が増加。〔C社ヒアリング〕

E T C割引の影響から、利用客が対前年月比（2月・4月の土日）、約3割減少した。〔D社ヒアリング〕

2-2 地域生活の変化や活性化

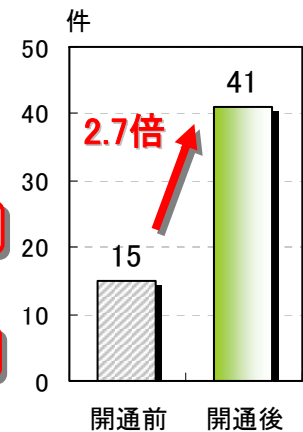
1) 救急搬送

- ・ 高山市消防本部では、東海北陸道の全通（白川郷 I C～飛驒清見 I C 区間開通）により、白川村から高山市内の病院への搬送がスムーズとなり、搬送実績が開通前に比べ2.7倍増となりました。これにより、地域の医療サービスの体制強化に繋がっています。

白川村⇒高山市への救急搬送実績が26件、2.7倍増



白川村⇒高山市内の病院
開通前後の搬送数グラフ



開通前: H19.7.1～H21.5.31
開通後: H20.7.1～H21.5.25

出典: 高山市消防本部ヒアリング結果

2) 教育活動の変化

- ・ 東海北陸道全通により、白川村の中学校において、富山県内及び高山市など周辺市町の学校との日帰りスポーツイベントの開催、参加が可能になり、学校間の交流が盛んになると同時に、宿泊経費の節減にも繋がっています。
- ・ 白川村の小学校では、高山市での行事参加の際の移動ルートを、国道から東海北陸道利用に変えたことにより、児童の乗り物酔いがゼロになりました。

東海北陸道沿線の小中学校での利用が活発化

白川村の小中学校の事例



バレーボール「白川郷カップ」初開催

- ◆ 全通により、白川村内の中学校でバレーボール「白川郷カップ」を初開催。 <参加校: 岐阜県高山市・富山県砺波市・南砺市より>
- ◆ 東海北陸道利用で、各中学校が宿泊することなく参加することが可能となり、実現。

中体連高山市大会への日帰り参加

- ◆ 東海北陸道利用で、白川村の中学校が高山市の大会に日帰り参加が可能に。
- ◆ 平成20年度は約20万円の経費(宿泊費)節減。

国道利用から東海北陸道利用で児童の乗り物酔いがゼロに

- ◆ 白川村の小学校が、高山市での行事参加の際の移動ルートを、国道156号から東海北陸道に変更したことで、児童の乗り物酔いがゼロになった。

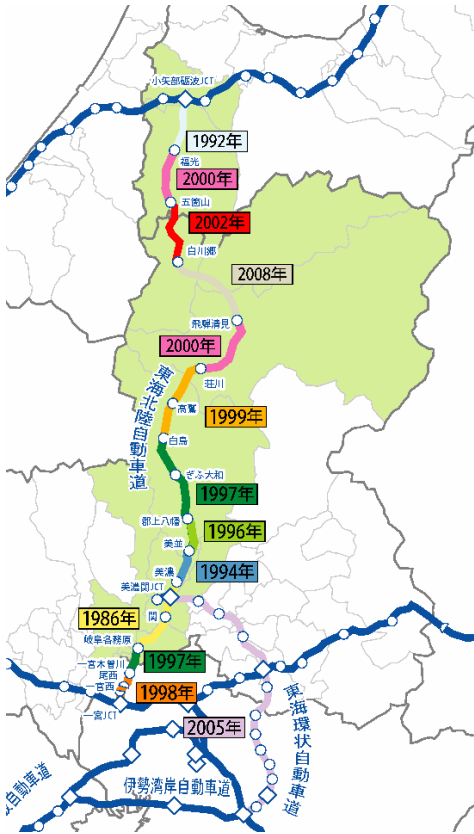
出典: 白川村、高山市、小・中アンケート結果

3) 沿線地域の活性化

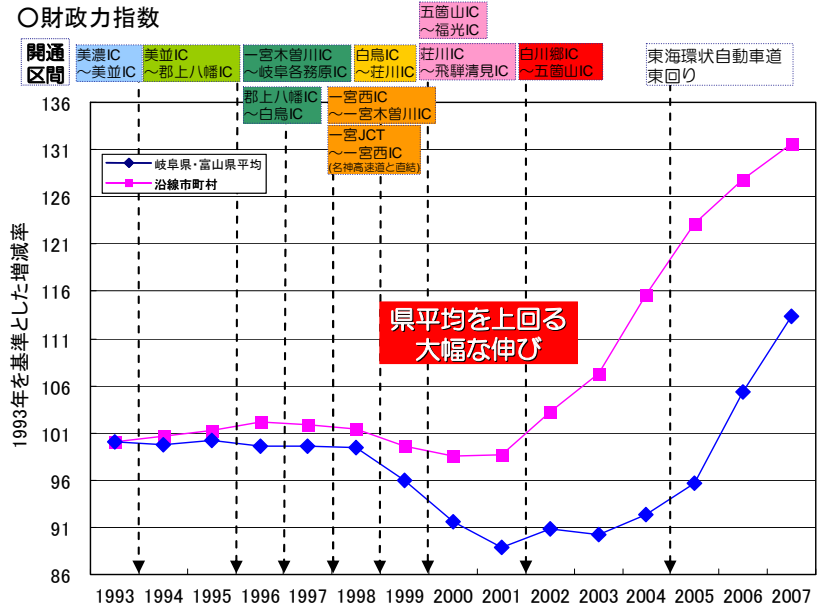
- ・ 東海北陸自動車道の沿線市町村の財政力指数と、他の岐阜・富山県内の市町村を比較すると、沿線市町村では、成長傾向にあります。

ネットワーク形成後 沿線地域の財政力指数が向上

○東海北陸道各区分開通年



○財政力指数



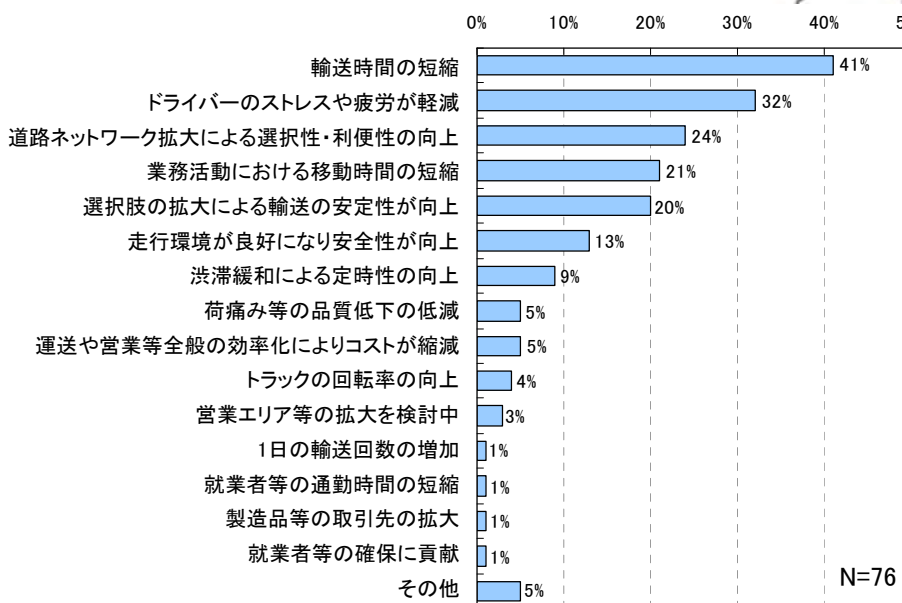
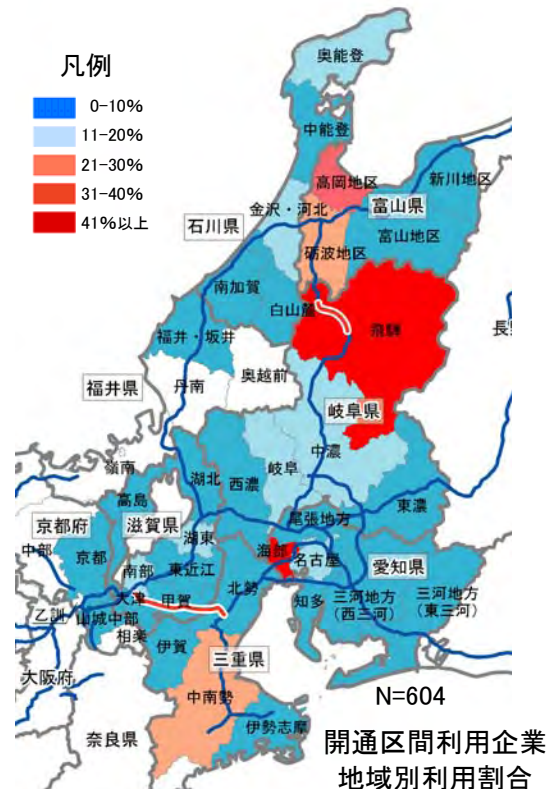
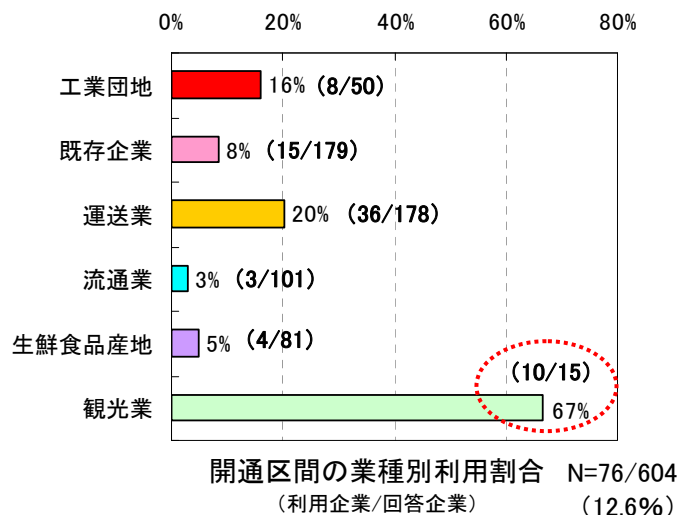
出典：岐阜県市町村財政の状況（市町村台帳編）1993年～2007年
 富山県地方交付税の状況・普通交付税、地方特例交付金等、及び
 臨時財政対策債発行可能額算出資料 1993年～2007年
 ※1993年を基準に増減率を算出。
 ※1993～2001年の財政力指数は過去3年間の平均値、2002～2007年は単年値
 ※2003年以降は市町村合併の影響で財政力指数が大幅に増加
 県平均：岐阜県と富山県全体の単純平均
 沿線市町村平均：岐阜県（岐阜市・高山市・関市・美濃市・各務原市・飛騨市・
 郡上市・岐南町・笠松町・白川村）および
 富山県（南砺市・砺波市・小矢部市）の単純平均

2-3. 企業活動の変化

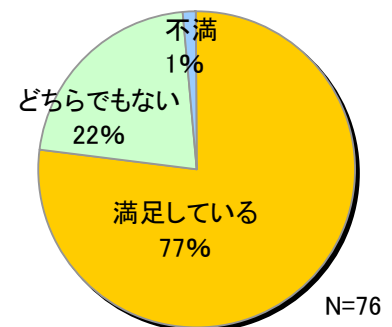
1) 東海北陸道沿線企業の期待度と満足度

- ・東海北陸道全通について企業アンケートにより、開通区間※の利用状況と効果、満足度等を分析した結果、対象企業の12.6%（76/604企業）が開通区間を利用したとの回答があり、特に観光業において67%という高い利用率が見られました。（※白川郷IC～飛騨清見IC）
- ・東海北陸道起終点及び開通区間沿線地域の企業の利用が活発となっています。
- ・輸送時間の短縮やドライバーの疲労軽減などの効果が発揮されています。
- ・開通区間を利用した（している）企業の大多数77%が満足していると回答しており、不満は1%と高満足度となっている。

開通区間周辺及び北陸方面の企業の満足度、期待度が高い



開通区間の利用による効果



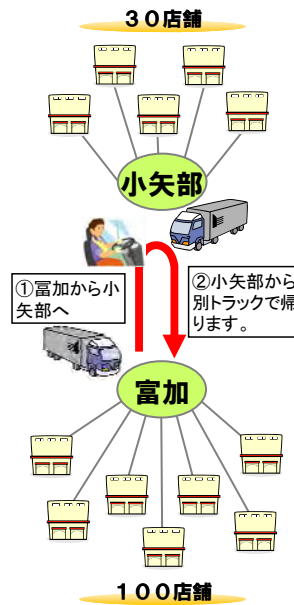
開通区間に関する利用企業の満足度

出典：2007ネットワーク企業アンケート結果

2) 輸送効率の向上によるコスト縮減

- ・岐阜・富山に拠点をおく物流業者B社では、景気低迷の中、東海北陸道を利用し効率化を図ることと、物流コストの削減を実現しています。
- ・東海地域に100、北陸地域30店舗を有するホームセンターの商品を一元化管理する物流センターでは、岐阜―北陸の拠点間を東海北陸道で幹線輸送、ドライバー1名が荷積み済み車両の往復運転を試行、ドライバーの人件費を削減し、全体コスト縮減を図っています。

岐阜・北陸間の効率アップにより輸送コスト削減を試行



同一トラックの2往復の場合も試行予定、大型2台を依頼し、5万と5万で10万円の費用だが、1台で2往復なら8万円で交渉など考えられる(コスト2割削減)

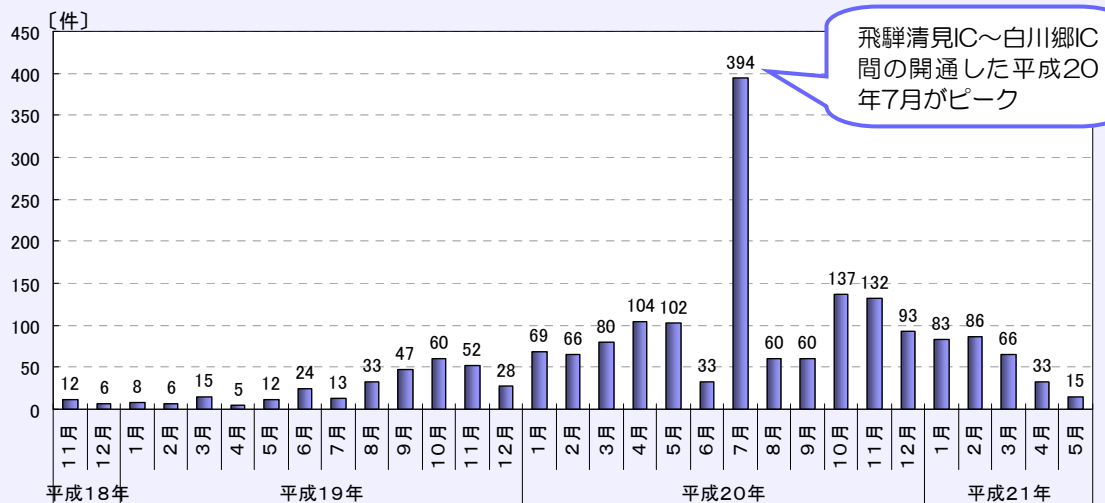


出典:企業ヒアリング結果

Topics 話題性や注目度の高い東海北陸道

東海北陸道に関する話題や沿線話題は、毎月、新聞に掲載され、話題性や注目度の高さが伺えます。

全通した平成20年7月以降、平成21年4月までの10ヶ月間、2日に一度は、東海北陸道の話題が新聞記事になっています。



飛騨清見IC～白川郷IC間の開通した平成20年7月がピーク

※平成21年5月は、5月23日付けまで集計

東海北陸道関連記事の月別掲載件数の推移